

熊本地震被災地を訪ねて

寿徳寺がある益城町平田地区は、同寺門徒5人が亡くなるなど地区全体が甚大な被害を受けた。

同寺門徒の西村正敏さん(88)、美知子さん(82)夫妻は、4月16日の地震で家屋の下敷きになり亡くなった。一緒に暮らししていた嫁の京子さん(62)と孫の洋介さん(38)は現在、近くの体育館で避難生活を続ける。

河邊裕司住職(37)の連絡で、京子さんが自宅に

戻り、取材に応じてくれた(写真)。

14日の地震の後、京子さんたち4人は車で夜を明かしたという。「足が悪いおじいちゃんに車中泊は厳しかった。おばあちゃんもそれを気遣っていたので」と、玄関に近い部屋を片付け、何とかベッドで寝られるようにした。「15日夜には電気が復旧し、余震も収まったと思った。おじいちゃんとおばあちゃんと息子

が一緒に寝た。私は車で寝ていたが、まさか…」。

16日の未明に起きた地震。京子さんは助けを求めて公民館に走った。閉じ込められた洋介さんは、月の明かりだけを頼りに自力で這い出した。朝になり、レスキュー隊が正敏さん夫妻を見つけました。息はなかった。「私ただけではどうしようもなかった。真っ暗な中で息子は、おばあちゃん『出られない、苦しい』という声を聞いていた。夜になると思い出すみたいで…」と話した。

「闇の中、おばあちゃんのうめき声が…」



門徒が5人亡くなった益城町平田地区

火葬だけしたが、すぐに葬儀は営めなかった。京子さんは「葬儀場も被害を受け、私たちも避難生活。葬儀ができず『申し訳ない』という気持ちだった」と話す。5月29日、四十九日に合わせて葬儀を営んだ。「誰にも案内をしていなかったのに、地区の多くの方が参ってくださり、ありがたかった。一つの区切りになった」と語る。

自宅の解体工事、仮設住宅の入居は順番待ちの状態。いつになるかわからないという。大きな不安を抱えながらの生活が続く。